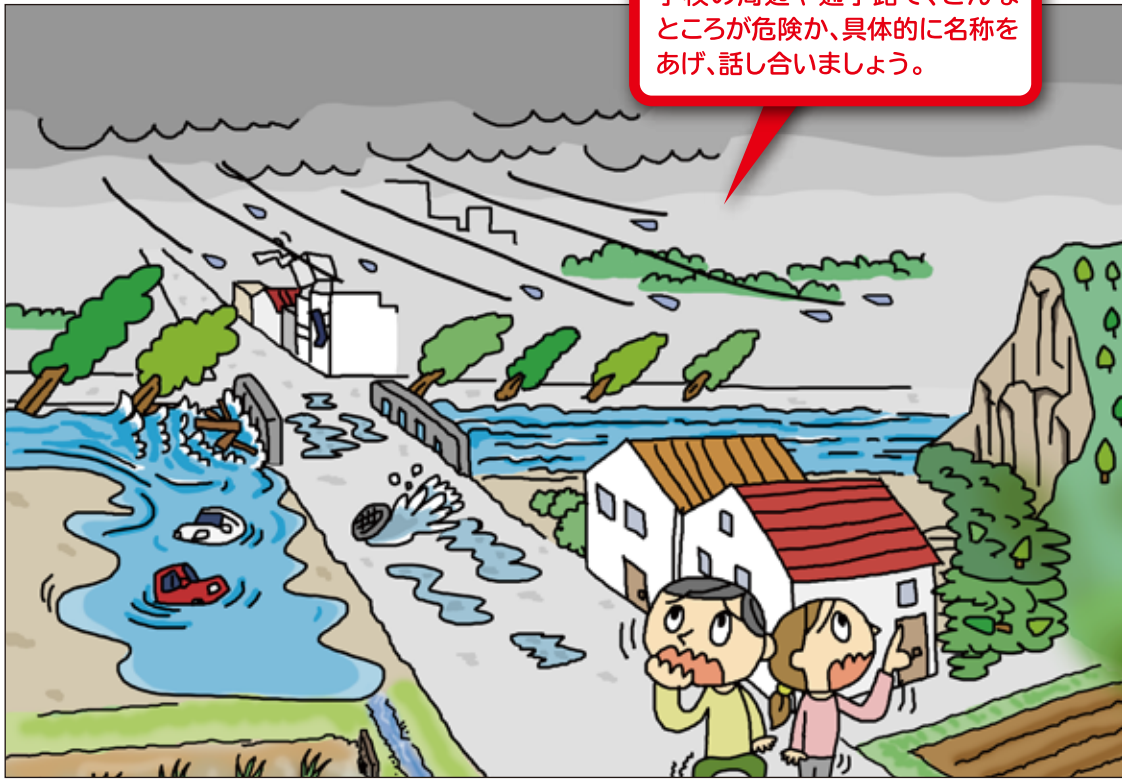


台風がきたら、どんな危険なところがあるでしょうか？
絵を見て書いてみましょう。

学校の周辺や通学路で、どんなところが危険か、具体的に名称をあげ、話し合しましょう。



危険なところ

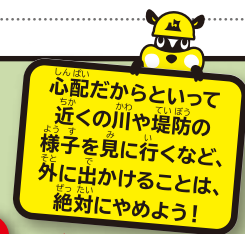
- 強い風で、看板などが飛んできてケガをする。
- 電信柱や背の高い木が折れて、落下してくる。
- 飛んできたものが窓ガラスにぶつかって、ガラスが割れる。
- 川が氾濫して、車が流される。
- 電線が切れて、感電する危険がある。
- 山では、土砂崩れが起きて、家が埋もれる。
- 用水路やマンホールから、水があふれ出す。
- 外を歩いている人が、水路やマンホールに落ちる。

家族
チェック

コメント欄

確認日

(月 日)



様子を見るために、川や用水路に近づくことは、危険行為であると伝えましょう。

足を守るための厚底スニーカーを一番に履くことを強調。長靴は、中に水が入ると、重くて歩けないので逆に危険であることも伝えましょう。道路の水が深く、歩けないようであれば、無理せず、家の2階以上へ避難するように指導しましょう。

おおあめ こうずい たいふう み まも
大雨・洪水・台風から身を守ろう



「あおりおももりノート」 小学校4～6年

こんなとき、あなたはどのような行動をとりますか？
その理由も書いてみましょう。

おおあめ こうずい
大雨・洪水におそわれたら！

津波のほか、大雨によって川が増水することや街の水路、マンホールなどからも水があふれ出ることによって、洪水が起こることもあると伝えましょう。

いざという時、すぐ持ち出せるよう日頃から防災リュックのチェックを行っておくように指導しましょう。(詳細は青森県防災ハンドブック「あおりおももり手帳」P98、99を参照)



とるべき行動

- スニーカーを履く。
- 防災リュックや携帯電話を持って2階以上へ行く。



とるべき行動

- なるべく高い建物に避難。
- 車での移動を止める。
- マンホールや水路に落ちないように気をつける。



とるべき行動

- 大声で近くの大人に知らせる。
- 携帯電話で119番に電話する。
- 親に電話する。
- 高い建物に連れて行く。

マンホールや水路に落ちないように、長い棒を杖がわりにして安全を確認しながら避難しましょう。

まめ ち しき こうずい しゅるい
豆知識：洪水の種類

● 下水道などから水があふれて起こる「内水はらん」



● 河川が増水して防からあふれ出る「外水はらん」



児童が一人の時はどうするか。家族での連絡の取り方を決めておくことが重要。また、子どもだけではどうにもできない時、どうするべきか日頃から家族や地域で決めておくことが大切です。

台風がきたとき、それぞれの場所で、どのような行動をとりますか？
絵を見て書いてみましょう。

土砂災害から身を守るために！



とるべき行動

- 早めに避難所へ行く。
- 家の山側と反対側の2階以上へ行く。



とるべき行動

- 山や崖からはなれる。
- 広い場所まで逃げる。

地域の中で、土砂崩れが起きそうな場所は、どの辺なのか、具体的にみんなで出し合ひましょう。

その他の災害「大雪、雷、突風、火山噴火」などの自然災害のときはどうするか、家族で考えておくことも大切です。



もしも！のとき、情報をどのように集めますか？

- テレビやラジオ
- SNS
- 地域の防災放送
- 県や気象庁のHPなど

間違った情報に注意。SNSやインターネットは、古い情報や誤った情報が拡散されていることも。間違った情報は広げないように、県のHPなど正しい情報を確認しましょう。（詳細は青森県防災ハンドブック「あおりおまもり手帳」P48、49、110、111を参照）

家族で決めている災害時のルールを書き出してみましょう。

家族
チェック

コメント欄

このシートを使って、家族内でルールを見直し、再確認させる機会にしましょう。

テレビやラジオ、インターネットなど、具体的にどこへアクセスすれば、情報入手できるか、子どもたちに普段から意識させましょう。また、携帯電話の有無、自宅パソコンの有無、様々な状況を加味し、入手できる方法をしっかり伝えましょう。



ちきゅうおんだんか すす
地球温暖化が進むと
ちきゅうじょう お
地球上でどんなことが起こるの？

ちきゅうおんだんか いま ちきゅうじょう お
地球温暖化によって、今、地球上では、どんなことが起こっていますか？
えみか
絵を見ながら、書いてみましょう。

二酸化炭素の増加による現象であることを伝えましょう。

せかい お
● **世界で起きていること**



氷河がとけて、海面が上昇



気候変動による異常気象・気温の上昇

にほん お
● **日本で起きていること**



豪雨災害の増加



生物・植物の生育の変化
(桜の開花が早まるなど)

ポイント

これまで、暖かい地域の西日本で起こっていたごう雨災害が東北地方でも
お
起こったりしているよ！

ちきゅうおんだんか すす たいふう おおあめ こうずい さまざま きけん ふう
地球温暖化が進むと台風や大雨・洪水などの様々な危険が増えてくるよ！



地球温暖化を防ぐために、自分たちができることを意識するよう指導しましょう。

地球温暖化により、 地域産業にも変化が起きる

地球温暖化が進むと、自然をこわすだけではなく、地域の作物が育たなくなったりもします。青森県の作物にも、少しずつひ害が出てきています。どんなところが変わってきているのか、家族や友達と話し合ってみましょう。

● 農家の人たちには



- 生育の不良（形や色が悪い、味が落ちるなど）
- 気温の上昇により牛や豚が体調を崩し、生産量が減少。
- 栽培できる品種が変化する。 など

● 海や湖など漁師の人たちには



- 海水温の上昇により、魚のエサとなるプランクトンが減少する。
- 魚のエサが減り、漁獲量が減る。 など

● そのほかで変わってきていると思うところを考えてみましょう。

- 海水温の上昇により養殖ホタテ貝が大量に死んだことがあった。

など

家族
チェック

コメント欄

確認日

(月 日)

自分たちが住んでいる地域や青森県ではどんなことが起こっているのか、調べたり家族や友だちと話し合うよう指導しましょう。



なん じょう ほう し ひ難情報について知ろう!

さいがい お なん め や す けい
災害が起こったとき、ひ難する目安を「警かいレベル」といいます。

さい がい はっ せい き けん ど 災害発生危険度



ポイント

「警かいレベル3」では、高いの方や障害のある方、にん婦など、ひ難に時間のかかる方やその支えん者の方は危険な場所からひ難し、それ以外の人はひ難の準備をすること。そして「警かいレベル4」では、対象となる地域住民は危険な場所から全員ひ難しよう。自分たちで、しっかり情報を集めることを心がけよう!



※政府広報オンラインより

はな あ
話し合ってみよう

けい けい こう どう
警かいレベルごとのとるべき行動

けい けい こう どう
警かいレベルごとに、どのように行動すればよいのか
か き ひょう み か ぞく はな あ か
下記の表を見ながら、家族と話し合い、書いてみましょう。

家族で話し合い、
記入しましょう。

警かいレベル	基本的なひ難行動	自分がとるべき行動	家族がとるべき行動
<p>警かいレベル 5</p>	<p>すでに災害が起きているか、 切迫しています！ 直ちに安全を確保する 行動をとります。</p>	<p>まずは、安全な場所 に避難し、親に連絡。</p>	<p>安全な場所に避難し、 家族の安否を確認。</p>
<p>警かいレベル 4</p> <p>危険な場所から 全員ひ難</p>	<p>速やかにひ難場所へ。 ひ難所まで行くのが危険な ときは、家の近くか家の中の 安全な場所へにげましょう。 警かいレベル4までに 必ずひ難しましょう。</p>	<p>親に連絡し、 現在どこにいるか、 これから向かう 避難先を伝える。</p>	<p>家族の安否と 避難先を確認。 非常用リュックを 持って避難所へ。</p>
<p>警かいレベル 3</p> <p>危険な場所から 高れい者等はひ難</p>	<p>お年寄りや障害の ある方など、ひ難に 時間がかかる人は、すぐに ひ難を始めましょう。</p>	<p>非常用リュックを 準備し、中身を確認。 避難の準備を はじめる。</p>	<p>家族に避難に時間が かかる人がいる場合、 避難所に行かせる or 連れて行く。</p>

※政府広報オンラインより (2021年5月現在)

あなたの家では、いつ、どんな時にひ難を始めればよいのか
調べてみましょう！

.....

.....



家族
チェック

コメント欄

確認日

(月 日)



いえ で まえ
家を出る前にチェックすること

じしん のあとで 電気やガスも止まり、ひ難することにしました。

自宅からひ難所へ行くとき、やるべきことはなんですか？

また、なぜそうするのか、正しいと思う理由すべてに○をつけましょう。



このへき行動

電気のブレーカーを落とす

その理由

- でんき がとおったとき
- 電気機器がこわれ、火事になるかもしれないから
 - 電気代がもったいないから



このへき行動

ガスや水道の元栓を閉める

その理由

- ガスや水道がなおったら
- ガスがもれて事故が起きるかもしれないから
 - 水道がこわれて、水がふき出すかもしれないから



このへき行動

窓や玄関に鍵をかけ、カーテンを閉める

その理由

- 家の中の様子をのぞかれ、どろ棒が入るかもしれないから
- 地震や津波で家がこわれるから



このへき行動

避難先を近所の人に伝える

その理由

- お互いの無事を知ることができるから
- ひ難するべきことを伝えられるから



たてももの 建物がこわれたり、火事や津波などの危険がせまっているときは、すぐにひ難しよう！

参考

ひ難時の基本行動

家から学校までの地図をかいて、危険な場所を書いてみましょう。



避難マップ記入欄

話し合って記入
させましょう。

ひ難時の家族の集合場所は
どこですか？

家族で決めたあなたのすべきことは
なんですか？

〇〇小学校

△△公民館

【下記のポイントを意識して、書いてみましょう】

- ①家からいちばん近い ひ難場所と、そこまでの道のりを書く。
- ②ひ難場所まで歩いてどのくらいかかるか、時間をはかって書く。
- ③ひ難時に危険と思われる場所を確認して書く。
(ブロックべい、電柱、水があふれそうな川、がけくずれしそうな所など)
- ④ひ難時の目印や役立ちそうなもの(公衆電話、公衆トイレなど)も書く。

※各市町村が指定する ひ難場所は、住んでいる市町村のホームページなどで確認できます。

家族
チェック

コメント欄

確認日

(月 日)

避難場所は災害が起きたとき、一時的に避難する場所。避難所は、災害が起きた後、一定期間避難生活をする所と、違いを指導しましょう。



なん じよ す かた ひ難所での過ごし方

なんじよ す かに き す え み か
ひ難所で過ごすとき、何に気をつけて過ごしますか？絵を見て、書いてみましょう。

けん こう 【健康でいるために】



しっかり水分をとる



トイレは我慢しない



体を動かすようにする

あつ さむ 【暑さ・寒さをしのぐために】



暑いときは、首の周りを
冷やす



寒いときは、手・足・首を
温める



寒いときは、床に段ボール
や新聞紙を敷く

かん せん よ ぼう 【感染しょうを予防するために】



マスクをして、咳エチケットに
気をつける



こまめな手洗い、
うがいの徹底



歯磨きなどをしっかりし、
口の中を清潔に保つ

かん せん 感染しょうについて

これまで、災害時には、さまざまな「感染しょう」が発生しています。ガレキや くぎなどで けがをした場合、傷口に土がつき、そこから感染する場合がありますので、傷口は、しっかり洗い流しましょう。
また、ひ難所内で感染しょうを防ぐためにも、げりやはき気、発熱など体調が悪いときは、すぐに大人に知らせましょう。



歯ブラシのない場合の口内ケアも指導。水で濡らしたガーゼやティッシュで口の中を拭くなどの方法があることを伝えましょう。

ひ難所で自分たちができること

みんなで協力して過ごすことが大切なひ難生活。
自分たちに何ができるか、絵を見て、書いてみましょう。

[みんなのためにできること]



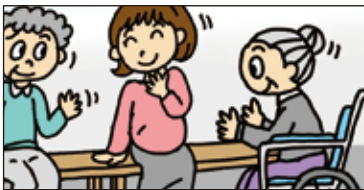
ゴミの分別をして
清潔に過ごす



トイレは汚さない。掃除も
きちんと清潔に保つ



必要な水などを運ぶのを
手伝う



子どもやお年寄り、
妊婦さんにやさしくする



みんなで使うものは、
お手伝いして、みんなで運ぶ



ルールを守って、相手に
思いやりの気持ちを持つ

[みんなが快適に過ごすために]



布団や毛布を日干しし、
空気の入替えや掃除を
して清潔にする



他の人のスペースに入ら
ない。見られたくない
ものは新聞紙などで包む



咳やくしゃみが出るときは
マスクをする

家族
チェック

コメント欄

確認日

(月 日)



●東日本大震災

2011年3月11日14時46分ごろ、三陸おきを震源とする、マグニチュード(M)9.0の地震が発生しました。

これは、日本国内観測史上最大規模、アメリカ地質調査所(USGS)の情報によれば1900年以降、世界でも4番目の規模の地震でした。

青森県でも三八上北地域の沿岸部に津波がしゅう来しました。

※出典：内閣府ホームページ「特集 東日本大震災」



かぶしま およ つなみ はちのへし しゅってん あおもりしんさい
蕪島に押し寄せる津波(八戸市) (出典：青森震災アーカイブ)



かわぐち ちくじゅうか ひがい ちよう しゅってん あおもりしんさい
川口地区住家被害(おいらせ町) (出典：青森震災アーカイブ)

宮城県石巻市の大川小学校では、想定外の大きさの津波が、学校や地区全体をおそい、みなさんと同い年の多くの児童たちがぎせいになりました。

また、岩手県釜石市の釜石東中学校では、過去に3度の大津波を経験していることから、津波からのひ難の仕方など、昔からの教訓や、日ごろのひ難訓練が活かされ、じん速なひ難によって津波からのがれることができました。

●西日本ごう雨

近年、西日本ごう雨など、数十年に一度といわれる記録的な大雨が多くなっています。洪水や土砂くずれなどで、広い地域で、たくさんのひ害が出ています。

私たちの住む地域でも、記録的な大雨が降る可能性があります。



みず ようす ていきょう おかやまけん
まちに水があふれる様子 (提供：岡山県)



さいち ふつきゅうさきょう ようす ていきょう ひろしまけんひろしまし
ひ災地での復旧作業の様子 (提供：広島県広島市)

さいがい お あ まえ せいかつ おお か
災害が起こると、これまで当たり前だった生活が大きく変わってしまいます。
 さいがい けいけん しょうがく せい さくぶん ず が み
災害を経験した小学生の作文や図画をしょうかいします。これらを見てどん
 き も いま じ ぶん かんが
な気持ちになったか、また、今、自分たちにできることを考えてみましょう。

ひがしに ほんだいしんさい けいけん じ どう さくぶん
東日本大震災を経験した児童の作文

ふ つう せい かつ しあわ
普通に生活できることの幸せ

がつ にち じ ぶん わたし きょうしつ がくねん せん せい ふ あん しん ばい
3月11日2時46分、私は教室にいた。学年はバラバラで、先生がいなくて不安や心配でいっぱい
 ひ なんくんれん お つ こうてい ひ なん そと ゆき ふ だ
だったが、すぐに避難訓練のとおり落ち着いて校庭に避難することができた。外は雪が降り出し、たく
 ひと な わたし ゆめ おも じ かん た
さんの人が泣いていた。私は、(きっと夢だ。こんなことあるわけない！)と思ったが、時間が経つにつれ、
 ほんとう じつ かん おそ
(本当なんだ・・・)と実感がわき、恐ろしくなってきた。

あと すぐに たいいくかん い どう つよ よしん なん ど き こわ どうきゅうせい ぜんいん
その後、すぐに体育館に移動した。強い余震が何度も来て、とても怖かったが、同級生が全員いるだけ
 あんしん でん き つか たいへん
で安心できた。少し落ち着くと、たくさんの人が避難してきた。が、水も電気も使えないので大変だった。

くら よしん つづ ぜん こう ぶん かえ わたし がっこう と うす ぐら なか
暗くなっても余震は続いた。全校の3分の2は帰ったが、私は学校に泊まることになり、薄暗い中、ご
 はん わ あ た
飯を分け合って食べた。

ご 入って じょうほう わたし う おさな こ
その後、やっと入ってきたラジオからの情報に、私はショックを受けた。それは、幼い子をはじめたく
 ひと な あくむ み あたま なか ま しろ
さんの人が亡くなったというものだった。悪夢を見ているかのように、頭の中が真っ白になった。それと
 どう じ かえ とも だち か ぞく しん ばい あたま だいじょう ぶ だいじょう ぶ おも わる
同時に、帰った友達や家族のことが心配になった。頭では(大丈夫、きっと大丈夫。)と思っ
 う なみだ と
ていても、悪いことばかりが浮かび、涙が止まらなかった。

よく じつ わたし いえ かえ いえ きょうりょく もと せい かつ もと
翌日、私はようやく家に帰ることができた。家では、みんなが協力して、元のおりの生活に戻そうと
 わたし か ぞく て つた わたし すう じつ かん でん き みず つか ひ び つづ
していた。私も家族のためにたくさん手伝いをした。数日間、電気や水、ガスが使えない日々が続
 く ろう あじ あいだ か ぞく あたた きずな あらた かん
ままでにない苦労を味わったが、その間、ずっと家族の温かさやありがたさ、絆を改めて感じていた。

なが はる やす お ひさ がっこう とも だち あ ひ みじか じ かん じ しん ご いちばん たの
長い春休みが終わり、久しぶりに学校で友達と会った。その日は短い時間だったが、地震後で一番楽し
 じ かん ふ だん せい かつ もと き
い時間だった。やっと普段の生活に戻ったような気がした。

あと せ かいじゅう ひと し えん ぶつ し はげ こと ば とど ほん とう ひと せさ いっしょう
その後は、世界中の人から支援物資や励ましの言葉が届いた。本当にたくさんの人に支えられて、一小
 ふつきゅう わたし おも ほん とう かん しゃ き も
は復旧したんだと私は思う。本当に感謝の気持ちでいっぱいになった。

わたし しん さい とお とも だち たい せつ ひ なんくんれん たい せつ まな なか とく
私は、震災を通して友達の大切さ、避難訓練の大切さなど、たくさんのことを学んだ。その中でも特に
 いのち たい せつ ふ つう せい かつ しあわ かん しん さい まな わす じん せい
命の大切さ、普通に生活できることの幸せを感じた。この震災で学んだことを忘れずに、これからの人生
 やく だ おも
に役立てていきたいと思う。

だいいちしょうがっこう
 ※第一小学校のこと。

しゅってん しがまし きょういく い いんかいはんしゅう ひがしに ほんだいしんさい たいけん
 出典：塩竈市教育委員会編集 東日本大震災を体験して



コメント欄



確認日

(月 日)



ひがしに ほんだいしんさい けいけん じ どう し
東日本大震災を経験した児童の詩

と けい と
ぼくの時計が止まってしまった

しゃしん
写真にうつっていた

つ なみ
津波のあとの

しょうがっ こう と けい
小学校にあった止まった時計。

と けい
ぼくにも時計がある。

あたま なか と けい
それは、ぼくの頭の中の時計、

からだ なか と けい
ぼくの体の中の時計。

と けい
そのぼくの時計が、

ひ と
あの日、止まった。

しゃしん と けい
まるであの写真の時計のように。

ひ き じ かん
あの日が来てしまうまでの時間、

ひ じ かん
それと、あの日のあとの時間。

おな じ かん す
同じ時間が過ぎゆくはずなんだけど、

まえ
やっぱり前とはちょっとちがう。

いま まえ
今まであたり前だったことができなくなった。

みず てん き がっ こう
水が、電気が、学校が。

いま ぜん ぶ まえ
今までは全部、あたり前だったのに。

まえ せい かつ
あたり前の生活が

まえ じ かん なか
あたり前の時間の中で

まわっていたのに。

いま
今までふつうだったことが

ふつうじゃなくなった。

せい かつ がっ こう べんきょう
ふつうの生活が、学校の勉強が、

いま
今までよりも

なに
何よりもうれしくなった。

いま と けい
今、そういえば、ぼくの時計は、

うご だ
また動き出している。

いま じ かん きざ
今までとはちがう時間を刻みながら。

まえ
あたり前のことが

まえ じ かん
あたり前じゃなくなった時間を。

ふつうだったことがふつうじゃなく、

うれしく感じる時間を。

いま おも
ところで今、ぼくは思う。

と けい
このぼくの時計、

うご
だれがまた動かしてくれたのだろう、

と。

ひと
きっと、たくさんの人。

い
だからぼくは言う。

みなさん、ありがとう。

と けい
ぼくの止まってしまった時計を

うご
動かしてくれて、

ほんとにありがとう。

みやぎけんひがしまつしまし
宮城県東松島市
みやとしょうがっこうじどう さくひん
宮戸小学校児童の作品



ゆめ きぼう ねんご みやとじま 「夢と希望にあふれる10年後の宮戸島」

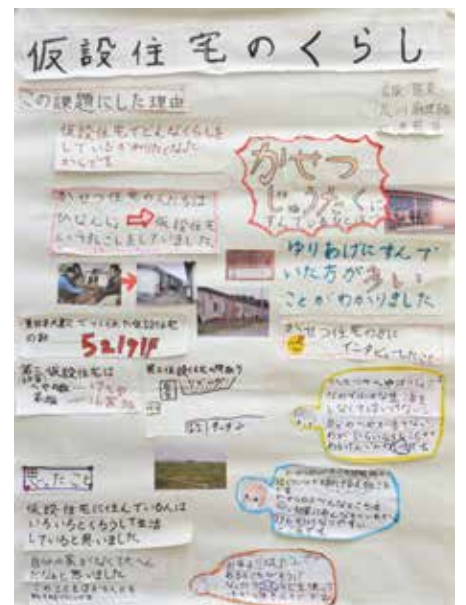
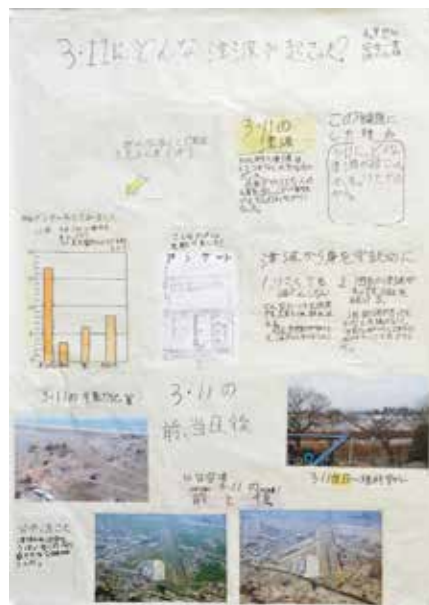
ひがしにほんだいしんさい みやとじま おお いえいえ はま つ なみ なが しんさい ま みらい む
東日本大震災で宮戸島は、多くの家々や浜が津波で流されました。この震災に負けず未来に向かって
がんばるために、10年後の宮戸島の風景を全校児童29人、一人一人が画用紙に描きました。

ひとりひとり えが ねんご みやとじま え に ふうけい つく はな あ いた まい
一人一人が描いた10年後の宮戸島の絵を、似た風景ごとにグループを作って話し合い、ベニヤ板4枚
ぶん へきが したのがこの絵です。大きな壁画を作っていく活動は、私たち小学生にできる宮戸島復興の
かつどう ぜんこう えが きも ひと え うま
活動そのものだと思います。全校で絵を描いて、気持ちが一つになりました。絵も上手くいったし、
これからも絵に込めた気持ちを忘れずにいたいです。

へいせい ねんとみやとしょうがっこう じどういちどう
平成23年度宮戸小学校 児童一同

みやぎけん なとりし しもますだしょうがっこうじどう さくせい はっぴょうしりょう
宮城県名取市 下増田小学校児童が作成した発表資料

ひがしにほんだいしんさい しんさい けいけん じどう しら
東日本大震災について、震災を経験した児童たちがさまざまなテーマについて調べ、まとめました。



しゅってん みやぎけんきょういくいんかい ひがしにほんだいしんさい かが じどうせい など さくひんしゅう
出典：宮城県教育委員会 東日本大震災に係る児童生徒等の作品集

家族
チェック

コメント欄



確認日

(月 日)

非常時の持ち出し品を準備しよう！

下記は非常時の持ち出し品です。絵に名前を書いてみましょう。

※青森県防災ハンドブック「あおりおまもり手帳」を見ながらチェックしていきましょう。

青森県防災ハンドブック
「あおりおまもり手帳」
P98、99を参照するよ
うに促しましょう。



現金



通帳のコピー



マッチ・ライター



くつ・スリッパ



飲料水



救急薬品・
常備している薬



缶切り・栓抜き・
はさみ



着替え



軍手



懐中電灯



乾電池



携帯ラジオ



携帯電話の充電器



洗面用具



レインコート・防寒具



非常食



トイレトーパー



タオル・風呂敷



乳児用品(紙おむつ、
ミルク、哺乳瓶)

ほか 他にどんなものがあつても、考えて書いてみましょう。

● 新聞紙 ● カセットコンロ ● マスク ● ウェットティッシュ

● 簡易トイレ ● 食品ラップ ● モバイルバッテリー ● アルコール消毒液

など

青森県防災ハンドブック
「あおりおまもり手帳」
P96、97を参照するよ
うに促しましょう。



以下に示すのは、学校と地域が一体になった防災訓練の実施例です。

どのようなことを決めて実施すればよいのか、この実施例を参考の上、各学校や地域の実情に応じて指導してください。

1 想定災害

地震、津波、風水害等

(想定する災害については、学校の立地状況や地域の実情を踏まえて設定)

2 訓練の概要

- 想定災害発生時における避難訓練
- 避難後等における共助に関する訓練
- 起震車や心肺蘇生法等の体験学習
- 想定災害からの身の守り方等を学ぶ防災学習

3 目的

- 災害が発生した際、命の安全を確保するための適切かつ迅速な行動の仕方について学習し、その行動についての重要度を理解する。
- 生徒の避難誘導や人員の確認、通報などの教職員の役割や自校の危機管理マニュアルの内容を確認する。
- 災害が起こったときに、自分や他者の命を守るため、冷静に考え、行動できる力を身につける。
- 防災知識の習得及び防災意識の向上を図る。
- 近隣の小・中学校、保護者、地域住民、関係機関等と連携し、学校と地域が一体となった防災訓練を実施することにより、より災害に強い学校づくりを目指す。

4 想定

※地震災害の場合

学校にいるときに、〇〇沖(又は直下型)を震源とする震度6強の地震が発生
(〈津波も含める場合〉高さ10m以上の津波が襲来)

5 参加者

〇〇小学校(全校児童〇名)、▲▲小学校(全校児童〇名)、□□中学校(全校生徒〇名)、
地元消防、日本赤十字社、自主防災組織、各町会長等、保護者
(その他、近隣の幼保施設、社会福祉協議会、高校等)

※学校と地域が一体になった訓練を実施する観点から、小・中学生及び保護者、地域住民等により編成された班による実施も考慮すること。また、近隣の小・中学校合同で訓練を実施する場合は、様々な学年の児童・生徒により構成された班編成についても考慮すること。

6 訓練の内容

区分	目的・内容	連携・協力先
避難訓練	<ul style="list-style-type: none"> ● 地震、津波、風水害等の想定災害からの身の守り方、避難経路及び避難場所の確認を行う。 ● 訓練結果を自校の危機管理マニュアルと照らし合わせ、教職員の役割を再確認するとともに、記載内容の精査を行うことにより、災害時の初動対応の一層の強化を目指す。 	
避難者誘導	<ul style="list-style-type: none"> ● 中学生・高校生が率先して近隣の小学校の児童や幼保施設の園児、介護施設入所者等を避難場所や地域の避難所となる学校へ誘導することにより、共助の意識向上を図る。 	近隣の小・中学校・高校、幼保施設、介護施設
要配慮者対応	<ul style="list-style-type: none"> ● 車いすや視覚障害者の誘導を体験し、災害時における要配慮者への理解を深め、共助の意識を醸成する。 	日本赤十字社、社会福祉協議会
起震車・煙体験	<ul style="list-style-type: none"> ● 地震発生時の揺れを体験できる起震車や、火災発生時の煙量を体験できる装置により、児童・生徒たちがより一層災害や火災を自分事として捉える機会とする。 	地元消防、県消防学校
応急処置体験	<ul style="list-style-type: none"> ● 正しい心臓マッサージの実施方法やAEDの活用方法、毛布等を活用した簡易担架制作を体験し、応急処置に関する知識を習得する。 	日本赤十字社、地元消防、自衛隊
非常食体験	<ul style="list-style-type: none"> ● 災害備蓄品である、「アルファ化米」等を使用した炊き出し訓練を実施し、災害時における備蓄食品の正しい処置方法等を学習する。 	地元自主防災組織、町内会、自衛隊等
防災学習	<ul style="list-style-type: none"> ● 「あおりおまもりノート」を活用し、「地震」、「津波」、「風水害」など、テーマを決めて該当ページを学習することで、想定災害別の防災知識を習得させる。 ● 回答の作成に当たっては、編成された班で話し合っって作成することも考慮すること。 	

- 各訓練等の所要時間は20分程度を想定
- 実施に当たっては、各会場を訓練参加者で構成された班がローテーションで廻り、実施・体験するもの

※児童・生徒たちの発達段階に合わせ、学年別に参加する訓練等を選択することも可